

## ネットヨタ京華 「旅立ちの日」 篇

---

SE バタン（ドアを閉める音）

M ~

女 私が東京でひとり暮らしを始める日、  
車で送ってくれたのは父だった。  
駅までの道のりは、ずっと無言。  
きっとそうなることがわかっていたから、  
私は助手席でなく、後部座席に乗った。  
車に揺られること数十分。  
ようやく駅が見えてきた。  
車が、ロータリーに滑り込む。  
私は、急ぐように車を降りた。

女 「じゃあ、ありがとうお父さん」

男 「ああ」

女 会話らしい会話は、たったそれだけ。  
ドアを閉め、父に向かって軽く手を振る。

女 「それじゃ」

男 「…」

女 父は、何か言おうとして言葉を飲み込んだ。  
想いを断ち切るように、私は駅に向かって歩き始める。  
振り返ると、車はまだ停まっている。  
後ろから次々に車が来るのに、まだ停まっている。  
けたたましくクラクションが鳴って、  
ようやく、ウインカーが点滅する。  
車の中で、父が、目の辺りをぬぐったような気がした。

NA 忘れられないシーンには、いつも車があった。  
あなたの人生と共に歩みたい。ネットヨタ京華。